

授業科目名		開講年次	開講期間	単位数	授業形態																																																
<b>がん看護学特論Ⅱ(がん看護理論)</b>		1	前期	2	講義 30時間																																																
担当教員	岡本明美、千葉恵子																																																				
授業概要	がん患者とその家族に対する看護介入に適用される主要な概念・理論についての理解を深め、実践への活用について探究する。																																																				
到達目標	1. がん患者とその家族を理解するための概念・理論について説明できる。 2. がん患者とその家族を理解するための概念・理論、最新の看護研究結果を用いて、看護実践について検討できる。																																																				
履修条件	特になし																																																				
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ストレス・コーピング理論の理解と活用</td><td>岡本</td></tr> <tr><td>2</td><td>ストレス・コーピング理論の理解と活用</td><td>岡本</td></tr> <tr><td>3</td><td>危機理論の理解と活用—フィンクの危機理論</td><td>岡本</td></tr> <tr><td>4</td><td>危機理論の理解と活用—フィンクの危機理論</td><td>岡本</td></tr> <tr><td>5</td><td>危機理論の理解と活用—アギュレラとメジックの危機の問題解決モデル</td><td>岡本</td></tr> <tr><td>6</td><td>危機理論の理解と活用—アギュレラとメジックの危機の問題解決モデル</td><td>岡本</td></tr> <tr><td>7</td><td>セルフケア理論の理解と活用</td><td>千葉</td></tr> <tr><td>8</td><td>セルフケア理論の理解と活用</td><td>千葉</td></tr> <tr><td>9</td><td>自己概念の理解と活用</td><td>千葉</td></tr> <tr><td>10</td><td>自己概念の理解と活用</td><td>千葉</td></tr> <tr><td>11</td><td>悲嘆・喪失の概念の理解と活用</td><td>千葉</td></tr> <tr><td>12</td><td>悲嘆・喪失の概念の理解と活用</td><td>千葉</td></tr> <tr><td>13</td><td>自己効力感の理解と活用</td><td>岡本</td></tr> <tr><td>14</td><td>自己効力感の理解と活用</td><td>岡本</td></tr> <tr><td>15</td><td>がん患者とその家族の個別の問題解決を図るための概念・理論の実践 への適用するまでの課題</td><td>岡本</td></tr> </tbody> </table>					回	内容	担当教員	1	ストレス・コーピング理論の理解と活用	岡本	2	ストレス・コーピング理論の理解と活用	岡本	3	危機理論の理解と活用—フィンクの危機理論	岡本	4	危機理論の理解と活用—フィンクの危機理論	岡本	5	危機理論の理解と活用—アギュレラとメジックの危機の問題解決モデル	岡本	6	危機理論の理解と活用—アギュレラとメジックの危機の問題解決モデル	岡本	7	セルフケア理論の理解と活用	千葉	8	セルフケア理論の理解と活用	千葉	9	自己概念の理解と活用	千葉	10	自己概念の理解と活用	千葉	11	悲嘆・喪失の概念の理解と活用	千葉	12	悲嘆・喪失の概念の理解と活用	千葉	13	自己効力感の理解と活用	岡本	14	自己効力感の理解と活用	岡本	15	がん患者とその家族の個別の問題解決を図るための概念・理論の実践 への適用するまでの課題	岡本
回	内容	担当教員																																																			
1	ストレス・コーピング理論の理解と活用	岡本																																																			
2	ストレス・コーピング理論の理解と活用	岡本																																																			
3	危機理論の理解と活用—フィンクの危機理論	岡本																																																			
4	危機理論の理解と活用—フィンクの危機理論	岡本																																																			
5	危機理論の理解と活用—アギュレラとメジックの危機の問題解決モデル	岡本																																																			
6	危機理論の理解と活用—アギュレラとメジックの危機の問題解決モデル	岡本																																																			
7	セルフケア理論の理解と活用	千葉																																																			
8	セルフケア理論の理解と活用	千葉																																																			
9	自己概念の理解と活用	千葉																																																			
10	自己概念の理解と活用	千葉																																																			
11	悲嘆・喪失の概念の理解と活用	千葉																																																			
12	悲嘆・喪失の概念の理解と活用	千葉																																																			
13	自己効力感の理解と活用	岡本																																																			
14	自己効力感の理解と活用	岡本																																																			
15	がん患者とその家族の個別の問題解決を図るための概念・理論の実践 への適用するまでの課題	岡本																																																			
教科書	なし																																																				
参考書	野川道子：看護実践に活かす中範囲理論、第2版、メディカルフレンド社、2016. 小島操子：看護における危機理論・危機介入 フィンク／コーン／アギュレラ／ムース／家族の危機モデルから学ぶ、第4版、金芳堂、2018.																																																				
評価方法・基準	授業への参加状況(20%)、作成資料(40%)、プレゼンテーション(40%)を総合して評価する。																																																				
事前・事後学習	事前学習：授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習を行い、資料を作成し、発表・討議に臨む。 事後学習：学習内容のがん看護実践への適用について検討する。																																																				
備考	特になし																																																				